

BMC プログラム・海外派遣報告書

化学専攻 物性有機化学研究室
博士後期課程 3年 上田 顕

参加学会：13th International Symposium on Novel Aromatic Compounds (ISNA13)

会場：Hemicycle Conference Center, Luxembourg

派遣期間：2009年7月18日～7月26日

今回私は BMC インテグレートド大学院理学教育の海外派遣支援を受けて、ルクセンブルク大公国の首都であるルクセンブルク市で行われた 13th International Symposium on Novel Aromatic Compounds (ISNA13) に参加し、研究発表をさせていただきました。本学会は、芳香族化合物の化学に関する世界的に著名で伝統のある学会です。本分野における日本人研究者の活躍はめざましく、第1回目の学会が1970年に日本で開催されて以来、これまでに日本で3度開催されています。

今回の学会が開かれたルクセンブルク市は人口が9万人ほどの小さな街ですが、中心部には世界遺産に登録されている「古い街並みと要塞群」があり観光客でにぎわっていました。学会会場となった Hemicycle Conference Center は、EU の機関である欧州司法裁判所、欧州投資銀行などの近代的なビルが立ちならぶルクセンブルク市郊外に位置していました。学会には欧米およびアジアを中心とする世界各国から約330人の研究者が参加し、250件を超える研究発表（口頭発表60件、ポスター発表194件）が行われました。昼間は世界的に活躍する第一線の研究者の口頭発表を聞き、そして夕方からは大学院生を中心とする若手研究者のポスター発表に対して議論を行うという充実した毎日でした。私も最近の研究結果をポスターで発表し、諸外国の著名な教授や同世代の大学院生と熱く議論しました。また Banquet では、外国の研究者や大学院生たちとお酒を飲みながらお互いの研究生活や文化・習慣などについて語り合いました。これらの経験を通して、この分野の現在および今後の世界的動向に対する自分の研究内容・研究成果の位置づけと今後の展開について改めて考えることができました。さらに、異文化に触れ、見聞を広めることの楽しさや重要性も再認識することができました。

最後になりましたが、経済的援助をしていただきました BMC インテグレートド大学院理学教育プログラムの関係者の皆様、そしてこのような機会を与えてくださいました物性有機化学研究室の皆様に深く御礼申し上げます。

